日體魂

日本体育大学
東京都同窓会会報
第１７号
平成 27 年 12 月 1 日発行
発行者 東京都同窓会長
高田 幸一

新役員挨拶

会長　高田 幸一

このたび、5月の役員総会で東京都同窓会会長という大役を引き受けました高田幸一です。

皆さまのご協力で無事に平成二十七年東京同窓会総会が終わり、お礼申し上げます。総会の準備・運営、また参加してくださった皆さま、本当にありがとうございました。大学関係者、保護者会の皆さまにも感謝申し上げます。

また、教育支援委員会は、多様化する学生のニーズに応え組織的に運営されています。二十七年度は、教育実習巡回指導、教員採用試験一次対策、二次対策では、昨年より成果が上がったと報告がありました。さらに広報委員会は、ホームページを立ち上げに向かい勉強会が予定されています。オームページは、学生及び卒業生、保護者会、教職員にも東京同窓会の活動内容を開示でき、同窓会ニュース「日体魂」等からも情報も提供し、今まで以上の理解の中で会員の獲得が期待できると考えています。

最後に次年度は、東京都で開催される関東・北信越大会に向けて竹内副会長を中心に準備委員会を設立しています。これらの活動をとおし、目的遂行のためにこの重責を誠心誠意、努める所存です。

皆様方のご協力をお願いすると共に、会への参加、さらに忌憚なきご意見どうぞよろしくお願いいたします。

副会長　大瀧 吉夫

S四十七年卒業。大学卒業後は大田・町田・品川と区立中学校で教職を遂行しました。この度、副会長として会長を補佐し、会員の皆様の声を傾け、大学の支援に傾注する覚悟です。よろしくお願いします

副会長　角杉 美恵子

S五十年卒業。多くの先輩方からの教えを受け、今日があることに感謝し、日体大魂を貫き「共によりよく」繋がり感ある同窓生の力強いネットワークを構築し、日体大発展のために尽力してまいります。何卒よろしくお願いいたします。

幹事長　関 毅彦

S五十年卒業。都高等学校保健体育研究会会長などの経験を生かし、同窓会の事務を行うと共に、教育実習生の支援、東京都教員採用試験の支援など大学との連携を図り同窓会の使命を微力ながら尽くす所存です。

副幹事長　落合 信一

S四十八年卒業。副幹事長に就任する事となりました落合信一でございます。先輩方の築かれた伝統と実績を守り、大学とも連携し、専心努力いたしますので、何卒一層の御支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十七年度 東京都同総会実施報告

幹事長　関　毅彦

平成二十七年度　日本体育大学東京都同窓会の定期総会を平成二十七年七月十八日（土）世田谷キャンパスにて開催いたしました。

来賓として、日本体育大学　理事長　松浪健四郎様、学長　谷釜了正様、副学長　阿部　茂明様、副学長　袴田大蔵様、体育学部長　具志堅幸司様、広報課　大海二朗様、学生支援センター　大山茂様、石井砂織様、全国同窓会会長　瀧澤康二様、関東女子の会会長　大淵恵美子様、東京都保護者会　竹之内勝様、校友課　永塚聖美様をお招きしました。

総会に先立ち、谷釜学長より大学の近況が報告されました。大学は法人と呼び名を改め学校法人日本体育大学となった経緯説明と、来年は創立百二十五周年行事を実施すること等が発表されました。

次に、日本体育大学同窓会表彰が行われ、東京都同窓会は、橋本壽夫様、矢口雅章様、松木英昭様、水村公様、佐山義昭様、城戸啓一郎様、武富博様の七名が表彰されました。

総会では、役員の改正が発表され、新役員が紹介されました。次に、規約の一部改正が承認され、平成二十六年度の活動報告・決算報告・監査報告と、平成二十七年度の活動計画・予算案が承認されました。

研修会は、講師に芦屋大学学長の比嘉悟先生をお招きし、「日体大で培った人間力」をテーマに、比嘉先生の幼少からの体験を含め、バスケットボールの話しや、日本体育大学での体験を中心に現在に至るまでの話しがありました。参加者一般七〇名、学生十二名は、熱意ある比嘉先生の話を拝聴し、活力をいただきました。

懇親会は、理事長　松浪健四郎先生のご挨拶から始まり、乾杯、懇談、参加学生の自己紹介などが行われました。懇親会参加の学生は三十五名で、参加学生の自己紹介では一人ひとりが目標を話すと、参加者から「いいぞ！」「頑張れ！」と後輩への熱き期待の声がかかりました。さらに、世代を超えた懇談に楽しいひとときを過ごし、予定時間より少し早い流れ解散ではありましたが、大好評のどら焼きを、参加者全員にお持ち帰りいただきました。閉会後、学生が二十時頃まで食事・歓談し、後片付けを行い終了しました。

本年度、会費納入を振り込みで行い、当日受付が円滑に進められました。昨年度のアンケートにあった名表（名札）の文字を大きくしたことは見やすくなったと好評でした。今年度のアンケート結果は、すべての面で概ね良好との評価をいただきました。また、多くの皆様からお祝い金を頂き感謝申し上げます。

同窓会への想い

前会長　岡田　信之

同窓会、およそ私には無縁のことであった。それがひょんな切掛けで数名の先輩方から同窓会への誘いを受け、同窓会の実情をお伺いし、その歴史を拝聴ご教示いただき又先輩方が永い歳月をかけて築いてきた同窓会、伝統の重さをしっかり守り発展させて来られた実績に改めて同窓会活動に価値観を見出した次第です。

たしかに、わが国教育文化の中心地、大東京のマンモス支部、大学のお膝元の東京都の果たすべき任務は大変であることを認識し、昭和五十三年頃より同窓会に携ることになった。三十七年間当初は無我夢中で取り組み先輩方のご指導により、徐々に同窓会の運営にも参画でき、新名簿の作成、情報の公開、規約の整備等を手掛け、それに大所帯のため分割化を図っていく計画と事務局の固定化、支部の業務制を進めていこうと頑張っている役員の姿勢は、早く同窓会運営を軌道に乗せたいと鋭意努力している姿を見たとき、伝統の

重さを感じ、「日体魂」の不屈の精神が感じられました。

平成十七年役員改選で、織部邦隆会長より、会長を引き継ぎ日体大魂でも書いたように、東京都は人数においても全国で最大の組織であり、又、地域が広く、さらに都会の人間関係の希薄さも重なり地方とは異なり同窓会の結束も弱く、まとめて行くことに大変なエネルギーが必要でした。

しかし、「現状維持は退歩である」と肝に銘じ、その伝統の重さを守り、発展させていくのが私達役員の使命であると考え身の引き締まる思いで引き受けたわけです。

我々同窓会も、母校を後援する懇親団体だけでなく、生涯教育の場を提供出来る力を持つ組織体であってもおかしくないと思います。東京都同窓会はその辺を踏まえて各種委員会を立ち上げ、その機会を提供したり、一翼を担って学生および卒業生に対し、東京都教員採用試験対策講座、東京都在住の四年生（二百三十名～二百五十名）に対する教育実習の巡回指導、それに「日体魂」の発刊等活発な活動を進めております。

各委員会を立ち上げたことで同窓会の足場固めも出来、会の運営の潤滑油となり、以上のような業務が出来たことはそれぞれの場で高く評価されております。

それに今後は学生の就職活動を手助けするための試験対策講習会も、考えなくてはならないと思います。平成に入ってから学生の就職先を「企業」にも向け、指導しており企業への就職者も50％以上あるということです。七月の総会の場で、情報の交換、親睦の場として考えて見てはいかがでしょう。以前にも「日体大魂」でお願いしたように、同窓会の力は瞬発的な一時の興奮状態ではなく持続的なものであって欲しいと思います。そしてその持続性こそ真の活性化につながるものと考えます。

教育実習巡回指導を終えて

都同窓会　副会長
特別講師　竹内　定雄

今年も後期の教育実習巡回指導が終わろうとしている。前・後期にわたって指導に当たられた関係の先生方には大変ご苦労様でした。

この巡回指導の始まりは、平成十四年に北海道と広島県で試行的に実施されたと聞いております。平成十八年に東京都同窓会が大学からの依頼を受け、公立中学・高等学校の管理職退職者が中心となり活動が開始されました。他の府県でも着実に成果を上げ、今では全国四十三都道府県の同窓会が協力するまでになり、残る岩手、山形、静岡、香川も近々開始されることでしょう。

文部科学省もこの実績を高く評価するところとなり、最近では他の大学でもこの日体大方式を導入するところが増えているようです。初期の頃は管理職経験の有るベテランの先生方が中心でしたが、徐々に管理職経験などには拘らず、協力しようと熱く燃えている若手の先生方にもお願いして若返りが進められているところです。

巡回指導の目的は、大学の講義で、また特別講師の事前指導で受けた事柄を実行しているかを確認に出向くことだと思います。私は受け入れ校との事前打ち合わせでは、一人三回三時間を目安に訪問をお願いしています。私流の巡回指導内容を記して多くの先生方のご意見をお聞きしたい。

① 授業の最初と最後の挨拶が正しく行われているかを見たい。

② 実習生の頭髪。極端な長髪や奇抜な髪形、女子の髪毛が運動に支障ないようにまとめられているか。

③ 服装。派手な流行のウエアーや大学で使用している華美なものは控えさせる。男女ともネックレス、ピアスは実習授業では使用禁止、可能ならば実習期間中は使用禁止が望ましい。

④ 授業環境の整備。体育館や用具室の清掃が行き届いているか、履き替えた上履きが散乱していないか、着替えの衣類が散らばっていないか、ごみが散らばっていないか。グラウンドや校庭に小石が転がっていたり、物陰に危険物が放置されていないかなど、授業に支障を及ぼすような状態ならば、まず、授業環境の整備から始めるよう指導する。保健授業の教室内外も同様で清潔で安全な環境で授業を進めることが大切だと思う。訪問した学校の粗探しにならないよう注意している。

⑤ 実技授業の解散時には怪我、事故の有無を必ず確認する習慣をつけること。後手にならないように、問題があった場合は迅速に的確な措置を取るように指導する。

⑥ 指導案や実習録、日誌はその都度点検し、誤字・脱字を指摘する。手間を惜しまず不安な漢字は辞書で確認する事。日ごろから小さなポケット辞書を携帯するよう勧める。今の学生はほとんどスマートフォンを携帯しているのでそれを利用して確認するようにしたい。

⑦　授業以外でも朝の校門指導、学級管理、学校行事(体育祭・学園祭)には進んで協力するように、放課後の部活動にも積極的に参加するよう勧める。参加実態を確認する。今回はホイッスルの使い方、生徒に対しての言葉使いなどを注意した。

我々は実習校の指導方針や内容まで立ち入ることは控える。それは担当教官の範疇で任せて指導をお願いする。深入りしてはいけない領域だと思う。ただ、以前から気になることがある。実技授業の準備運動にラジオ体操を取り入れている学校が多い。全員が操り人形のように機械的な号令に合わせテンポよく手足を動かしているだけで凡そ実技前の準備運動にはなっていない。実習生にも形だけの体操ではなく正確なラジオ体操を習得して指導に生かしてほしい。

以上、体育指導者を目指すなら当たり前で難しいことはない。今回担当した男子四名、女子二名（前期五名、後期一名）は良好だった。私は実習生に望む主なことがらを挙げてみたが、もっともっと的確な指導を実践されている先生が多いことでしょう。教育実習の指導内容充実のためにも反省会などを利用して実習生が指導者として一本立ちする時に大きく役立つ指導方法をさらに研究したいものと思う。

平成二七年度　都教員採用候補者選考　受験対策講座の報告

教育支援委員会
委員長　小橋川 和子
副委員長　五石 秀治

東京都同窓会として開催した受験対策講座をご報告いたします。本講座は、東京都同窓会が組織的・計画的に運営を行い、学生や卒業生の教員志望者が積極的に採用選考を受験し、一人でも多く合格し採用されるよう同窓会が支援することを目的としています。

平成二十七年度受験対策講座は、昨年度実施内容の振り返りをうけて、平成二十六年十二月から準備を行い、計画を練ってきました。今年度は、前回第十六号の「日体魂」でご報告した通り、学生が教育実習に入る前の、四月二十五日（土）、五月二日（土）の二回実施し、講演や教職教養問題等の指導を通して教育実習に取り組む意識を高められるよう指導しました。

また、教員採用選考受験に合格できる力を高めることをねらいに六月二十一（日）・二十八日（日）の二回を後半に実施し、受験直近の準備を整えることとしました。元東京都教育庁人事部職員課管理主事・元都立高等学校校長小巻氏による講演、東京都の中学校・高校の校長経験者による論文を個別的に指導することを重点とした内容で実施しました。

第三回以降も全国同窓会のホームページに案内が掲載されず、本学校友課の協力が十分に得られない結果となってしまいました。その結果、卒業生の受講参加を充分に得ることができず、計画のねらいを達成することができませんでした。これは、東京都同窓会が情報発信を主体的にできないということであり、来年度以降の重要な課題となっています。

なお、後半の二回は、申込者に対して受講者が少ない傾向は昨年と同様です。講座の指導内容と講義・講話などに関する受講生の感想・意見等を基に改善を図り実施して参りました。また、講師の事後アンケートの結果を次年度以降の実施計画策定の参考としていきたいと考えています。

教育支援委員会で把握している今年度の現役生の東京都の結果は、一次選考合格二十六名でした。二次試験後の最終結果は合格十名、期限付き合格八名で例年にない大健闘の結果となりました。講師を担当してくださった先生方に深く御礼申し上げます。次年度以降、後進の育成に向け更なる結果を残すよう教育支援委員会の委員の皆様のご協力と同窓の皆様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

受講者評価アンケート

・第１回　４月２５日　・第２回　５月２日　・第３回　６月２１日　・第４回　６月２８日

		評価内容	評定	１回	２回	３回	４回
受講者の自己評価	A	講義や演習の内容は、事前に準備を行ったり、前もって持っている知識があった。	5		2		1
			4	6	8	3	2
			3	5	5	6	1
			2	3	1	1	
			1	2			
			平均	2.9	3.7	3.2	4.0
	B	講義や演習の内容を理解し、自分の課題や目標を発見することができた。	5	7	3	2	1
			4	6	8	6	2
			3	3	5	2	1
			2				
			1				
			平均均	4.3	3.9	4.0	4.0
	C	講義や演習の内容を生かして、自分の受験対策を 考えることができた。	5	6	4	2	1
			4	7	6	6	2
			3	2	6	2	1
			2	1			
			1				
			平均	4.1	3.9	4.0	4.0
	D	講義や演習の内容により、学習や受験の準備について理解し実践できるようになった。	5	3	2		
			4	6	8	6	2
			3	6	6	4	2
			2	1			
			1				
			平均	3.7	3.8	3.6	3.5
	E	講座を受講したことで受験に意欲を持ち、積極的に取り組むことができる。	5	9	9	4	1
			4	5	3	6	2
			3	2	3		1
			2		1		
			1				
			平均	4.4	4.3	4.4	4.0

受講者の参加状況

	１回	２回	３回	４回
(事前)受講申込者数	26	35	32	29
(当日)受講申込者数	1	0	4	2
出席者数	18	16	12	5
事前申込者数/出席者数	69.2%	45.7%	33.3%	16.1%
アンケート回収数	16	16	10	4

担当講師の事後評価まとめ

○「総合的な評価」では、ほぼ全員が評価４として、ねらいや目標に対して充分な計画の実行がなされていると考えている。評価の平均値で 3.5 未満の項目について課題として取り上げ、問題点を考察し、今後の改善策などを検討する。

○「教職・専門教養問題の指導方法と内容について、如何だったでしょうか」は、評価の平均値がもっと低くなっている。あらかじめ自分自身で学習を進めていたり、学外の講習を受講していることですでに準備を進めている学生がいる。準備ができていない学生や卒業生と格差がある中で講義を進める方策を検討する必要が出てきた。しかし、本講座の開講趣旨である「学習する方策を身に付ける。」を守っていきたい。模擬を実施し試験に合格することだけを目指した講義にはしたくない。教員として活躍できる素養を身に付ける方策を学ばせることを目的として継続して指導していきたい。

○「一斉指導で行った論文問題の指導について、如何だったでしょうか」も評価が分かれた。講座の流れで配置を問題にする意見や「添削指導の時間が不足する」、「合格答案を活用した指導を行う」などの意見が出された。一方で、評価票の活用、論文を構築していく過程や論文の組み立て方の指導は良いとする意見もあった。講座を開講する時期や回数の問題(運営予算など)もあるが、講座開講の趣旨を再度検討し、趣旨に合った指導方法を計画する必要も感じる。受講生からの要望として、７月の選考が近付く時期の講座は、模擬試験の色合いを濃くしたほうが受講するものにとってよりよいとのアンケートも寄せられている。時期を分けて基礎講座と発展的な講座とに分けることも考える必要がある。

○「評価票を活用した指導は、如何だったでしょうか」は、本講座の特徴的な指導方法について感想的な評価を求めたものであるが、それぞれの立場で自己分析を行い共通した項目によって評価をし、指導をする側と受ける側が相互に考えを示すことは重要だと考えた。この方法で、より一層のコミュニケーションが図れると考えたが、時間が不足したり、評価することに慣れていなかったり、活用する考えが未成熟だったりしていたと思われる。評価の目的、考え方、方法について学習する時間を作り、活用させていく方法を取ることが必要と思われる。

○アンケートの各項目の記述内容では、次の内容について意見があった

講座の指導計画・進行などについては、受講生のアンケート回答や講師の回答からも評価の高い点があった。教職教養問題の指導では、受講生から過去問は自分だけでもできるという意見や講師からはこの時期に講習する内容としては時宜を逸していないかといった疑問が出されている。論文指導では、過去問での学習に疑義を抱くもの、合格答案で指導することに意義があるといった意見があった。また、一日に二問出題し論文を回答させたいとの意見や自分の論文を受講生全員の前で発表させてはどうかという意見があった。企画・計画立案・当日の運営など、組織的な管理を深め個人に過重な負担をかけないとの意見が出されている。今回は、広報活動が遅れた結果、参加者は在籍の学生がほとんどであった。これも大学との連携が不足していることによって生じたことであり、準備などの期間設定をして講座運営に専任として携わる方がいなければならない。

次年度に向けた課題として、①講座開講期日・回数の設定②企画・計画立案、運営・管理、渉外・会計など準備から当日までの役割分担③予算の立案と決算④教育実習と関連させ、教員となるための資質向上を活かした指導内容を工夫する。⑤「日体教学舎」の指導や大学当局の学生支援内容とリンクさせる工夫をする。⑥学生の就職活動を同窓会として支援する立ち位置を検討する。など検討を要することです。

編集後記

今号は６ページ構成で、新役員挨拶、総会報告、教育実習巡回指導、教員採用選考対策講座などの報告を致しました。

今年度も現役・卒業生は頑張って教員採用選考に取り組みました。今後の活躍を期待しております。

都同窓会の活動、会報第17号へのご意見やご感想、次号以降についてのご要望など、是非お聞かせください。